

# 活動実績 (2021年6月~11月)

- 【地域活動】
- 自然と環境の学習の場創り事業
  - ・緑化活動: 南岸6/26(土)10/9(土)、北岸7/17(土)、8/13(金)、9/24(金)、11/20(土)
  - 出前講座
  - ・沖縄県高等学校農業教育研究会総会「SDGsの視点を取り入れた農業教育について」: 6/22(火)
  - ・沖縄水産高校「報得川の水環境」: 9/14(火)
  - ・ELO赤土等流出防止対策実践バスツアー @ 恩納村: 10/30(土)
  - ・高嶺小学校「水環境講座」: 11/24(水)
  - ・沖縄大学「市民社会とボランティア」: 11/24(水)
  - ・鈴木様「漫湖の自然観察」: 11/26(金)
- ELO赤土等流出防止対策実践バスツアー @ 八重瀬町: 11/27(土)
- 団体受入
  - ・大成高等学校: 10/28(木)
  - ・尼崎高等学校: 11/29(月)
  - 第6回おきなわ水環境セミナー: 11/4(木)
  - OECエコガイド研修: 10/1(金)
  - イベント出展
  - ・おきなわ国際協力・交流フェスティバル(デジタルコンテンツ): 11/20(土)~21(日)
  - 水辺講座「貼り絵アートづくり」: 7/29(木)、8/10(火)
  - 水辺の環境学習教材体験: 6/22(火)
  - サガリバナ観賞会(OEC会員・ボランティア対象): 7/2(金)

- おきなわSDGsユース研修受入: 7/19(月)~7/20(火)
- 【国際協力】
- 受託事業
  - ・JICA研修員受入事業: 課題別研修(遠隔研修)「2020熱帯・亜熱帯におけるエコツーリズム企画・運営(A)」: 10/4(月)~10/15(金)
  - ・JICA研修員受入事業: 課題別研修(遠隔研修)「2020熱帯・亜熱帯におけるエコツーリズム企画・運営(B)」: 10/19(火)~10/30(土)
  - ・JICA研修員受入事業: 課題別研修(遠隔研修)「2021熱帯・亜熱帯におけるエコツーリズム企画・運営(A)」: 11/8(月)~12/20(月)

# 活動計画 (2021年12月~2022年5月)

- 【地域活動】
- 自然と環境の学習の場創り事業
  - ・緑化活動: 南岸12/11(土)、以降、北岸or南岸で毎月開催予定
  - 出前講座
  - ・沖縄大学「国場川と水辺の環境」: 12/1(水)
  - ・ELO赤土等流出防止対策実践バスツアー @ 宜野座村・金武町: 12/18(土)
  - 団体受入
  - ・廿日市西高等学校: 12/8(水)
  - ・乙訓高等学校: 12/13(月)
  - ・雲雀丘中学校: 12/17(金)
  - ・大阪成蹊短期大学: 2/22(火)、2/24(木)
  - ・藤沢翔陵高等学校: 3/5(土)
  - イベント出展予定
  - ・県民環境フェア: 1/30(日)
  - ・国場川水あしび: 未定
- 【国際協力】
- 受託事業
  - ・JICA研修員受入事業: 課題別研修(遠隔研修)「2021熱帯・亜熱帯におけるエコツーリズム企画・運営(B)」: 1/10(月)~2/26(土)
  - ・JICA研修員受入事業: 日系研修「沖縄のツーリズム・ストラテジー」: 1/14(金)~2/12(土)

## 報告⑤ 会員・ボランティア交流サガリバナ観賞会開催しました

7月2日(金)、OECの会員・ボランティアとその関係者を対象にサガリバナ観賞会を開催した。毎年ご好評いただいている首里崎山町等でのサガリバナ観賞会はコロナの影響で2019年、2020年と開催することが

## お知らせ

### 会員・ボランティア募集

- 入会申し込みは、ホームページから。
- 緑化活動をお手伝いして下さるボランティアを随時募集しております。お気軽にお問い合わせください。

できなかったが、今年は水辺の緑化ボランティア活動の日頃のお手入れの成果を見る目的も兼ねて案内を会員・ボランティアのみに限定し、漫湖南岸遊歩道沿いでサガ

### 達人デリバリー (出前講座) ミライへ・プロジェクト (団体受入)

- 申し込み、問い合わせはこちらまで!
- TEL 098-833-9493
- e-mail gyomu@npo-oec.com

リバナを観賞した。参加者同士のゆんたくを楽しむ良い機会にもなった。(研究員 金城明子)



サガリバナをライトアップ 南岸ではピンクのサガリバナを見ることが出来る

## 特定非営利活動法人 おきなわ環境クラブ

〒902-0075  
沖縄県那覇市宇国場370番地307号室  
TEL 098-833-9493  
FAX 098-833-9473

ホームページ  
[www.npo-oec.com](http://www.npo-oec.com)  
e-mail kokuba@npo-oec.com

[www.facebook.com/OkEnv](https://www.facebook.com/OkEnv)



1面  
●団体受入再開  
●宮古島の水環境

2面  
●今年も赤土ツアー実施中  
●サポーターの声  
●出前講座  
●JICA研修

3面  
●マングローブのつばやき  
●水辺講座  
●緑化活動

4面  
●活動実績  
●活動計画  
●お知らせ  
●サガリバナ観賞会開催しました

表紙の植物 マニラヤシ  
フィリピン原産のヤシ科の植物。冬になると房状の実が鮮やかな朱色に色づきます。そのことからクリスマスパームとも呼ばれます。

## トピック② 宮古島の水環境

宮古島はサンゴ礁が隆起してできた島で川がなく、現在、生活と産業用水のほとんどを地下水に依存している。島の地下水は地表の水が石灰岩の地層にたまって作られ、雨水の約4割が地下浸透すると言われている。石灰岩の地層は透水性が高く、そのため農地にまかれた肥料や排水に含まれる窒素が地下浸透し、地下水の硝酸態窒素濃度に現れてくる。硝酸態窒素が多く含まれる水を飲んでみると、体の中で亜硝酸態窒素という物質に変わり、「発がん性」や全身に酸素が行き届かなくなる「メトヘモグロビン血症」の発症につながるため、飲み水に含まれる硝酸態窒素の量は10mg/ℓ以下という

## トピック① 団体受入再開

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため発令されていた緊急事態宣言が9月末に解除された。最近では感染状況が落ち着いてきていることもあり、街なかの人出も徐々に戻りつつある。それに伴い、当クラブでは、自然を体験する環境学習プログラム「ミライへ・プロジェクト(団体受入)」の本格再開に向けて、プログラムの質の向上に取り組んでいる。特に、那覇市の末吉公園をフィールドに実施するコースについては、「環境と生き物、生き物同士のかかわり」「自然の恵みの上に成り立つ人の暮らし」を感じていただけるような内容にリニューアルし、順路を再構築した。具体的には、ガイド内容を解説中心だったものから、問いかけを通して気づきや発見を促す内容にした。これを従

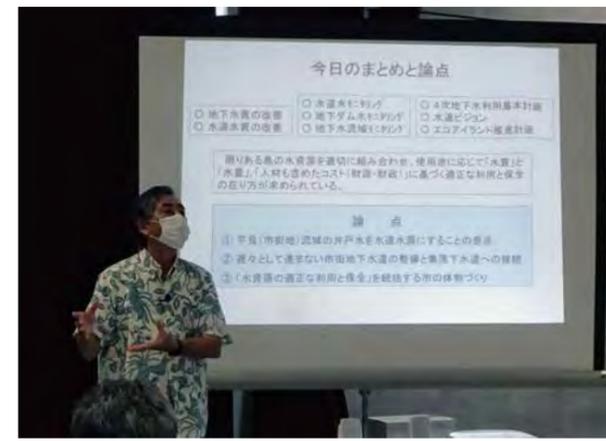
来から提供している五感で感じる体験と組み合わせることで、より参加者が能動的に楽しく学べるプログラムとなった。当クラブの環境学習プログラムには持続可能な開発目標「SDGs」の視点が入り入れられており、新しい生活様式を実践する安心・安全な受入体制のもと、楽しくしっかり学ぶことができる。多くの人に体験していただきたい。(研究員 高嶺正満)



リニューアルしたプログラムで修学旅行を案内

基準が設けられている。一方で、硝酸態窒素は農作物にとっては吸収しやすい栄養素である。つまり、農業用水であれば、硝酸態窒素濃度はあまり気に

しなくてよいということだ。11月4日(木)に宮古島市で開催した第6回おきなわ水環境セミナーでは、会長の下地が満員の参加者にこれからの宮古島の水環境保全・管理の在り方についての問題提起をした。



第6回おきなわ水環境セミナー(2021年11月4日) 於:宮古島市未来創造センター研修室

宮古島の人たちは、今後水道使用量の増加や、気候変動による降水の変化が想定される中、どのような水をどのように使っていくのか考えていくことが大事だろう。OECで制作中の宮古島の水環境教材がその一助となれば幸いである。(事務局 立田亜由美)

## トピック③ 今年も赤土ツアー-実施中

当クラブでは(株)沖縄教育旅行社と共同企業体を結成し、赤土等流出防止対策実践ツアー委託業務を沖縄県から受託している。昨年度から2年連続の受託となる。

沖縄県では赤土等の土壌が海へ流出することによりサンゴ礁などに悪影響をもたらすことが以前から問題となっている。

このバスツアーは「どうして土壌が流出してしまうのか」「どうしたら土壌の流出を抑えることができるのか」を座学と実験で、最も大きな流出源となっている農地では

グリーンベルト植栽をする実践で学び、「土壌は沖縄にとって大切で大事なもの」ということが実感できる体験を交えた内容となっている。

さて、このように楽しく学べるバスツアーだが今年も昨年同様、新型コロナウイルス感染症の影響により野外活動を自粛している団体が多く、参加者集めに苦労している。感染症流行以前のような状況に戻るにはまだ時間が掛かりそうだ。そんな状況の中、第1回(10/30)と第2回(11/27)を



グリーンベルトの効果を実験する実験

無事開催することができた。残り1回も無事開催できるように!

(研究員 高嶺正満)

## トピック④ サポーターの声：なはエコガイド 屋嘉比進さん



屋嘉比進さん

私のまわりで“エンターテイナー”と呼ばれている屋嘉比さんは、定年退職後、最近の海洋汚染や地球温暖化を防止するためには世論喚起が必要だと感じ、ガイドになられたそう。OECとはガイド養成講座をきっかけに出会った。OECへの一言をお伺いしたところ「SDGsに基づく環境プログラムを作り、ガイド活動を展開して啓発活動の一翼を担うオピニオンリーダーの役割を果たしましょう」とのこと。

OECとして、これからも邁進したい。

(研究員 高嶺正満)

## 報告① 出前講座

昨年度から活動自粛状態だった団体受入の一方で、オンラインでも対応できる出前講座はリピーターや新規の申し込みがあった。

5月29日(土)に末吉公園で実施した美ら夢子ども園の「公園の自然とホテルの観察会」(参加48名)は、新型コロナまん延防止重点措置期間中であつたため、様々な感染防止措置を取ったうえで実施した。

6月22日(火)の沖縄県高等学校農業教育研究会総会での講演会「SDGsの視点を取り入れた農業教育について」(対象約100名)はオンラインで行い、農業教育にはSDGs目標すべての視点を取り入れるこ

とが可能であることをお伝えした。

9月14日(火)に実施した沖縄水産高校船長コースの授業「報得川の水環境」(対象12名)は、緊急事態宣言延長期間中であつたためオンラインで実施した。この講座では講義のほか教室で先生にアシストいただき遠隔で実施したワークショップもあり、新しい取り組みとなった。

11月24日(水)に実施した高嶺小学校5年生の総合の授業「水環境講座」(対象43名)では、久しぶりに行う対面の講座で野外と室内の実習中心の授業を行った。

同じく11月24日(水)に開講された沖縄大学の講義「市民社会とボランティア」(対象約100名)では、OECの活動における環境ボランティアの意義と実践について話し、後日、学生の皆さんにはOECの緑化ボランティア活動に参加していただく予定である。

(事務局長 立田亜由美)



沖縄水産高校のオンライン出前講座



水辺講座で制作した貼り絵アートを持って集合写真(群星児童クラブ)

## 報告② JICA研修

昨年度に引き続き海外からの研修員が来日できないことになったため、今年度は繰越案件として「2020年度熱帯・亜熱帯におけるエコツーリズム企画・運営」(A:英語)及び(B:スペイン語)コースと、2021年度の同コースを合わせて4コースの遠隔研修を実施することになっている。

特に、10月に実施した昨年度(A)(B)遠隔研修コースでは、対面で予定していた沖縄のエコツーリズム実践事例の学びや交流を遠隔研修でどのように実現させるのか工夫した。アジア大洋州、カリブ、中南米から参加した計13か国17名からは概ねよい評価をしてもらえたが、やはり、皆、いつかは来日して体験したいと願っていた。

(事務局長 立田亜由美)

## コラム マングローブのつばやき~その19~ラムサール条約登録湿地「与那覇湾」

宮古島の「与那覇湾」は、リュウキュウスガモなどの海草帯の広がりやシギやチドリ、サギなどの渡来地として、2012年7月ラムサール条約湿地に登録された。貴重で多様な干潟の生態系として、世界的に保全と活用が求められている。しかし、ここにはその登録の表示すら無く、2011年に国が指定した特別鳥獣保護区を示す解説板が川満漁港にただ一つあるのみだ。ラムサール条約に登録されて9年が過ぎた今、ここは宮古島市と沖縄県、環境省から忘れ去られようとしている。



サニツ浜の干潟の広がり

かつては湾口の松原集落の人たちがここを拠点にカツオ漁を、湾内においては刺し網、小型の定置網や地引網、もぐり漁、釣り・採取漁などを盛んに行っていた。しかし世界的な流通の発展により、ここの零細な漁業は衰退し、湾内から漁業は無くなった。

OECは設立以来20年余り、与那覇湾(川満漁港とサニツ浜)を「自然と環境の学習の場」として、マングローブなどによる水辺緑化の実践活動や教材・プログラムづくり、そしてワークショップを数多く開催してきた。川満漁港周辺では、特に木道からの

## 報告③ 水辺講座

7月29日(木)に小祿南児童クラブ、8月10日(火)に群星児童クラブを対象に「リサイクル名人になろう!『貼り絵アート』づくり」と題して水辺講座を開催した。プログラム前半は、小祿南児童クラブでは漫湖周辺を歩いて自然や河川敷の漂着物を観察し、群星児童クラブではビデオ教材を使っ

## 報告④ 緑化活動

今年も緊急事態宣言の影響により、一時はボランティア募集もできない状態が続いたが、定例の緑化活動はスタッフのみでお手入れを行い、毎月欠かさず活動を続けた。

地域では季節の行事やお祭りが中止になるなどして夏の実感があまりわかなかったものだが、植物の開花や結実を目にする季節が確かに巡っていることが感じられる。

これからも近隣を通る人たちの憩いの場として自然豊かな漫湖の水辺環境を残していきたいと思う。

(研究員 金城明子)

マングローブ観察・体験学習が子どもたちに大人気で、南国自然の観光スポットとしてもにぎわっていた。しかし、2018年3月に木道の一部が損壊する事故が起き、その後宮古島市は木道全体を撤去した。

ラムサール条約では、登録湿地の「保全と再生」「賢明な利用」「交流・学習」をうたっている。今、環境クラブはこの三つのねらいに立ち返って、今後も与那覇湾の活動を継続して行く計画である。

(会長 下地邦輝)



川満漁港の特別鳥獣保護区解説板



川満マングローブの木道(2008年8月1日)



生い茂る下草。スタッフだけで活動すると、日頃のボランティアさんたちの協力のありがたみを実感する